

「日本週間」開会式での藺浦外務大臣政務官 挨拶

このような素晴らしい夕べを皆様とともにご一緒出来ることを、大変光栄に思います。はじめに指摘させて頂きたいことは、日本とイスラエルの友好関係を深めていくアクターは、政府や政治家のみではありません。真の主演は、本日ここに集^{つど}っておられる両国市民である皆様です。

先ほども素晴らしい音楽演奏がありました。この日本週間では、多くの日本文化に触れて頂けます。茶道、華道、書道から、音楽、日本食、映画、アニメ、スポーツと、多様な日本文化を目で、耳で、舌で、実際に体験して頂けます。日本について勉強された方も、日本をよく知らない方も、この1週間を新たな日本発見のため大いに活用して下さい。

最近、日本でもイスラエルのコスメ店であるサボン^{サボン} ラリン^{ラリン}が、東京のみならず、日本の北から南までの主要都市に店舗展開する大変な人気ぶりです。昨年東京に進出したチョコレート店のマックス^{マックス} ブレナー^{ブレナー}のMax Brennerもあつと言う間に日本の人々の心を鷲掴みにしました。

日本も負けてはいられません。この「エルサレム日本週間」をとおして、皆様に少しでも日本の虜に出来ればと思います。

今回の日本週間を通じて、日本をもっと身近に感じることから始めて下さい。2020年には東京オリンピック及びパラリンピックも開催さ

れます。日本に関心を持たれた方が、来日くださることを心待ちにしています。

政府としても、両国がお互いを実際の距離以上に身近に感じられる国となるよう努力します。特に、若い方々が旅行を楽しみながらも、就労が可能となる「ワーキング・ホリデー制度」をイスラエルとの間で早期に導入出来るよう取り組んでいきます。

日本の文化は寛容、和、平和の精神に基づいており、日本文化が中東地域に広まり、地域の平和に貢献することを強く願っております。この1週間、日本の文化を大いに楽しんでください。

ありがとうございました。

(了)